

# 付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成28年2月12日～19日に陸奥湾4定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

## 1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバは4地点とも見られませんでした(図1、表1)。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2、表1のとおり野辺地沖で2/12に7.0個/トンで、他の3地点では見られませんでした。

キヌマトイガイラーバの出現数は図3、表1のとおりで、久栗坂沖で2/19に81.3個/トン、小湊沖で2/12に31.3個/トン、野辺地沖で2/12に280.5個/トン、川内沖で2/19に243.7個/トンでした。

ネンエキボヤラーバ及びマボヤラーバは見られませんでした。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位:個/トン		
		ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H28.2.19	0.0	0.0	81.3
小湊沖	H28.2.12	0.0	0.0	31.3
野辺地沖	H28.2.12	0.0	7.0	280.5
川内沖	H28.2.19	0.0	0.0	243.7

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

## 2 水温の状況

各ブイの2月22日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(2/22)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	9.6	東湾ブイ	5.0
奥内ブイ	7.5	浜奥内ブイ	4.8
青森ブイ	7.6		

※奥内,浜奥内は10m層,他は15m層

## 3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバの秋～冬にかけての出現は終了し、出現数は平成25～26年度に比べて西湾では少なめ、東湾では同じくらいでした。

ネンエキボヤは、当所前棧橋に垂下した養殖カゴに付着したコロニー(群体)が肉眼で確認されており、各地の養殖施設でも随時調査して行きます。

オベリア(クサ)のクラゲの出現数は前回とほぼ同じで、1/29～2/19の間に当所実験漁場(久栗坂、川内)から回収したパールネット及び付着調査用パームロープに、5cm前後のオベリアの成体(ポリプ)の付着が見られています。

キヌマトイガイ(コメガキ)のラーバ(300ミクロン以上)の出現数は、今のところ昨年同時期と同じくらいですが、付着サイズの大型ラーバ(700～800ミクロン)が見られ、2/19に当所実験漁場(久栗坂、川内)から回収した付着調査用パームロープに約1mmのキヌマトイガイが付着していたことから(写真1)、養殖施設への付着が始まっているものと思われます。

今後のラーバ等の出現動向及び付着状況については、次回(3月上旬発行予定)の情報を参考にしてください。

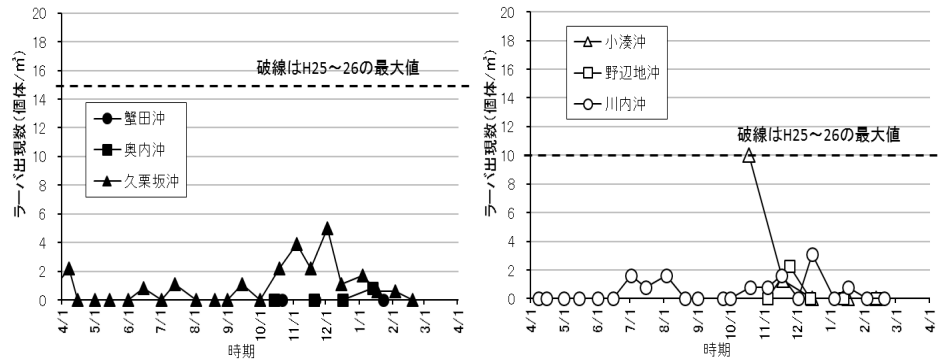


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

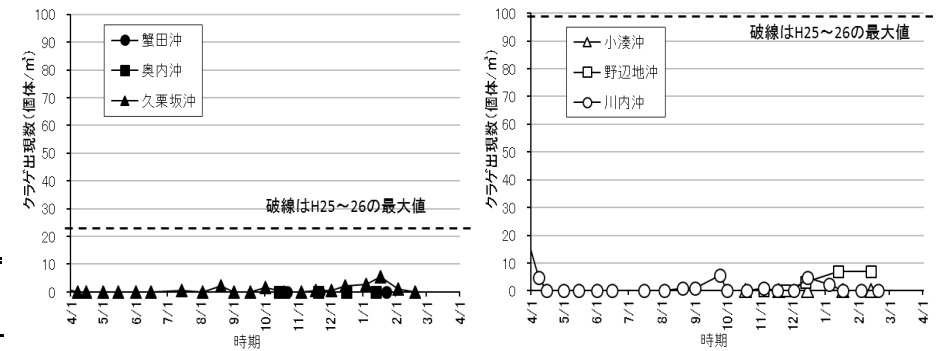


図2 オベリア類のクラゲ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

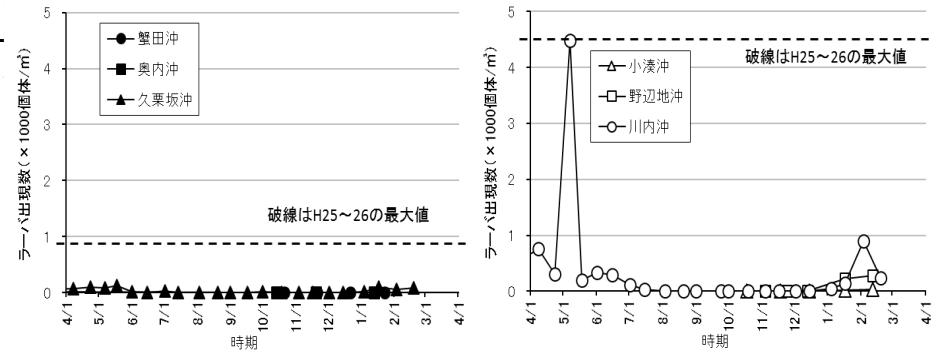


図3 キヌマトイガイのラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

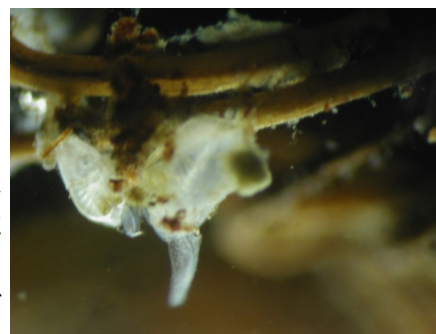


写真1 パームロープに付着したキヌマトイガイ

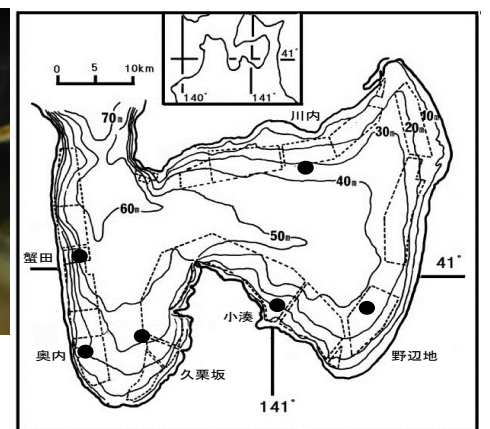


図4 ラーバ調査地点

